

バロックとその周辺の音楽

2022年11月5日(土)

13:00 開演 (12:30 開場)

シルバーマウンテン 1F

洗足学園音楽大学・大学院



～新型コロナウイルス感染症拡大防止のお願い～

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力くださいますようお願い申し上げます。
- ・出演者とのご面会は楽屋口、ロビーを含め全面でご遠慮いただいております。尚、出演者への花束・プレゼントもお控えくださいますようお願い申し上げます。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場をお願い申し上げます。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしていただきますようお願い申し上げます。
- ・客席やロビーでのご飲食はお控えくださいますようお願い申し上げます。
- ・大声や対面での会話はお控えくださいますようお願い申し上げます。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合もございます。



〔第一部〕

H.パーセル／「メアリー女王のための葬送の音楽」より 行進曲、カンツォン
Henry Purcell / March, Canzona from Music for the funeral of Queen Mary Z.27

1st S.Rec. 菊地 さやか(学4) 阿部 木綿(学3) 中村 汐里(学3)
2nd S.Rec. 川崎 さくら(学2) 伊藤 菜々実(学2) 田中 茉悠(学3) 中澤 匠(学3)
A.Rec. 勝俣 璃南(学4) 二条 朱音(学4) 高橋 瑛莉香(学2) 青木 優太(学3)
T.Rec. 木下 愛梨(学2) 阿部 希海(学2) 上野 恋南(学3) 山路 百音(学4) 杉方 花野(学4)
指揮：高橋 明日香 (本学講師)

H.パーセル／シャコニー
Henry Purcell / Chacony

S.Rec. 阿部 木綿(学3) 中村 汐里(学3) 川崎 さくら(学2) 伊藤 菜々実(学2)
A.Rec. 勝俣 璃南(学4) 二条 朱音(学4) 高橋 瑛莉香(学2) 青木 優太(学3)
T.Rec. 菊地 さやか(学4) 田中 茉悠(学3) 中澤 匠(学3)
B.Rec. 木下 愛梨(学2) 阿部 希海(学2) 上野 恋南(学3) 山路 百音(学4) 杉方 花野(学4)
指揮：高橋 明日香 (本学講師)

J.S.バッハ／フランス組曲 第5番 BWV 816 ト長調 より
アルマンデ、クーラント、サラバンド、ガヴォット
Johann Sebastian Bach / Französische Suiten Nr.5 G-Dur BWV 816
Allemande, Courante, Sarabande, Gavotte
Cemb.吉田 陽南子(学4)

J.V.メダー／トリオ シャコンヌ ハ長調
Johann Valentine Meder / Trio Chaconne in C major

Mand.島田 龍輔(学3) Fl.小西 健文(学2) Ob.宮本 菜摘(学4)
Fg.上治 唯奏(学4) Cemb.横山 あかり(学3)

G.B.プラッティ／トリオソナタ ニ長調
Giovanni Benedetto Platti / Trio sonata in D major

Mand.村山 実裕加(学2) Ob.岸原 伶奈(学2) Fg.渡邊 陽南(学3) Cemb.福田 ルアナ(学2)

山口 広夢(学4)／モダン・バロック
Hiromu Yamaguchi / Modern Baroque

Fl.小西 健文(学2) Ob.岸原 伶奈(学2) Fg.渡邊 陽南(学3)
1st Cemb.柴崎 奎吾(学4) 2nd Cemb.山口 広夢(学4)

～ 休憩 ～



[第二部]

F.ピッコーネ / マンドーラのためのシンフォニア

Francesco Piccone / Sinfonia per la mandola

Mand.島田 龍輔(学3) Cemb.柴崎 奎吾(学4)

J.S.バッハ / 2台のチェンバロのための協奏曲第2番 BWV 1061 ハ長調

Johann Sebastian Bach / Konzert für 2 Cembali Nr.2 C-dur BWV 1061

第一楽章 primo 福田 ルアナ(学2) second 西川真衣(学3)

第二楽章 primo 鈴木美咲(学1) second 杉村 春香(学1)

第三楽章 primo 福田 ルアナ(学2) second 小林 萌(学4)

～ 休憩 ～

[第三部]

C.モンテヴェルディ / かくも甘い苦悩が

Claudio Monteverdi / Si dolce e'l tormento

Ms.上原 愛美(院1) Cemb.吉川 麻衣(学4)

H.シュッツ / おおイエスよ、甘美な名

Heinrich Schütz / O Jesu, nomen dulce

Ms.上原 愛美(院1) Cemb.吉川 麻衣(学4)

C.P.E.バッハ / オーボエと通奏低音のためのソナタ H549

Carl Philipp Emanuel Bach / Sonata in G minor for oboe and continuo H549

Ob.福田 真弓(学1) Fg.財津 向日葵(学1) Cemb.小林 萌(学4)

J.S.バッハ / トリオ・ソナタ第4番 ホ短調 BWV 528

Johann Sebastian Bach / Trio Sonata No. 4 in E Minor, BWV 528

Ob.d'amr.宮本 菜摘(学4) Cemb.小嶋 みのり(学4)

G.チェルベット / 3本のチェロのためのソナタ 第2番

Giacobbe Cervetto / Sonata per tre violoncelli n. 2

Fg.平川 眞鈴(学4) Fg.上治 唯奏(学4) Fg.渡邊 陽南(学3)



H.パーセル／
「メアリー女王のための葬送の音楽」より
行進曲、カンツォン
Henry Purcell / *Music for the funeral of Queen Mary Z.27*
March, Canzona

現在でも「英国史上最高の作曲家」といわれるイギリス・バロック円熟期の大作作曲家ヘンリー・パーセル（1659-1695）が、当時英国国民から絶大な人気を得ていた女王メアリー二世の葬儀のため、同国ルネサンス期の大作作曲家トーマス・モーリーの作品に書き足す形で発表した作品です。

メアリー女王はパーセルのパトロンでしたが、天然痘のため、1694年32歳という若さで亡くなっています。その翌年の3月、ウェストミンスター寺院での葬儀において、この音楽は演奏されました。

H.パーセル／シャコンニー
Henry Purcell / *Chacony*

本来は4つのヴィオールのための作品ですが、現在は弦楽四重奏として演奏されている他、リコーダーアンサンブル曲としても高い人気を誇っています。

原曲はト短調ですが、リコーダーアンサンブル用にニ短調に移調され編曲されています。曲名はスペインを起源とし、定型的な低音進行が特徴的な音楽形式であるシャコンヌに由来しています。

J.S.バッハ／

フランス組曲 第5番 BWV 816 ト長調 より
アルマンド、クーラント、サラバンド、ガヴョット
Johann Sebastian Bach / *Französische Suiten Nr.5 G-Dur BWV 816*
Allemande, Courante, Sarabande, Gavotte.

フランス組曲はJ.S.バッハが「クラヴィーアのための組曲」と名付け、作曲された組曲。「フランス組曲」と命名した者は判別されていない。作曲時期は1722年頃と推定されており、バッハの2人目の妻アンナ・マグダレーナと1721年に結婚し、彼女に最初に贈った「クラヴィーア小曲集」に一部不完全ではあるが、フランス組曲の初めの5曲が含まれている。

組曲はいくつかの舞曲により構成されており、アルマンド、クーラント、サラバンドと続き、最後はジグで締めくくる。これら4つの舞曲は17世紀後半に確立された鍵盤組曲の典型的な形であるが、サラバンドとジグの間には様々な当世風の舞曲を挿入することが許された。代表的なものにメヌエット、ガヴョット、ブレ、ルール、エアなどがある。第5番は、アルマンド、クーラント、サラバンド、ガヴョット、ブレ、ルール、ジグで構成されているが、今日は抜粋して最初の4曲を演奏する。

アルマンドは4分の4拍子で、落ち着きを保ちつつとても愛らしい優美な舞曲。

クーラントはアルマンドとは対照的に速いテンポの活発な3拍子の舞曲。

サラバンドは3拍子の舞曲で、情緒的で美しく、ゆったりとしたアリアとなっている。

ガヴョットはフランスの上流社会で流行した明るく快活な民俗舞曲。4分の4拍子で、第3拍目のアフタクトから始まるガヴョット特有のリズムが顕著に表れる。

J.V.メダー／トリオ シャコンヌ ハ長調
Johann Valentine Meder / *Trio Chaconne in C major*

ヨハン・バレンティン・メダー(1649～1719)は父と4人の兄弟全てがオルガニスト又はカントルである音楽一家に生まれたドイツの作曲家である。作曲家の他にオルガニストや歌手といった一面もある。

1670年にホフカベレでプロの歌手としての地位を確立し、主に北東ヨーロッパで宮廷歌手として活動した。1674年にドイツの作曲家であるブクステフデに会い、メダー自身の作曲に大きな影響を与えた。

この時代の理論家であり作曲家でもあるマッテゾンの記述によると、メダーは、若い頃にイタリア語を学んでおり、17世紀のイタリア音楽にも精通している、ということである。

シャコンヌとは、バロック時代の器楽形式の一つであり、三拍子の緩やかな変奏形式の曲である。



G.B.プラッティ / トリオソナタ ニ長調
Giovanni Benedetto Platti / Trio sonata in D major

ジョバンニ・ベネデット・プラッティは1697年頃パドヴァ出身で生まれ、1763年に亡くなった作曲家だ。イタリアで声楽、オーボエ、ヴァイオリンなどの音楽を学びヴィルトゥオーゾとして知られていた。作曲技法はイタリア的というよりドイツ的要素が強く、初期はバロック様式、後期はシュトルム・ウント・ドランクの雰囲気を感じさせる。大胆な転調、豊かな想像力と発想が引き出された作品となっている。彼が活躍した時代はバロックから古典派の端境期であり、チェンバロからフォルテピアノへと、鍵盤楽器が発展した時期でもあったため当時のチェンバロの音域では出せない音が書かれていたりする。

今回のトリオ・ソナタは緩急のある楽章だ。元は4楽章からなる教会ソナタ形式だが、4楽章は途中までしか現存していないため今回は2楽章まで演奏する。普段はヴァイオリンで演奏されるが、今回はマンドリンで演奏する。

山口 広夢(学4) / モダン・バロック
Hiromu Yamaguchi / Modern Baroque

16世紀の終わり頃から現在も使われている楽器達が奏でる 現代の作曲者が書いた「バロック音楽」の作品である。400年以上前から約150年間はバロック時代ということだが、実は今この21世紀にもバロック音楽は作られているということを証明する曲をこの場でご披露。

複合三部形式。ニ長調 → ホ長調 → ニ長調

F.ピッコオーネ /
マンドーラのためのシンフォニア
Francesco Piccone / Sinfonia per la mandola

フランチェスコ・ピッコオーネ(1685-1745)はローマ出身のマンドリン奏者で、シンフォニアを含めいくつかの作品を残しているものの、現在まで伝わっている情報は非常に限られている。マンドリンは、17世紀から18世紀半ばにかけて、マンドーラ、パンドーラ、マンドリーノ、アルマンドリーノなど地域・作曲家により様々な名称で呼ばれており、また、地域によって調弦や形状に違いがある。

マンドーラはよりサイズの大きな楽器を指し示す場合もあるものの、ここではマンドリンを示す語句として使われている。

J.S.バッハ /
2台のチェンバロのための協奏曲第2番
BWV 1061 ハ長調
*Johann Sebastian Bach /
Konzert für 2 Cembali Nr.2 C-dur BWV 1061*

バッハは1729年から1741年にかけて、ライプツィヒにてコレギウム・ムジクムという民間の音楽愛好団体の指揮をしており、バッハのチェンバロ協奏曲はその演奏会のために作曲されていた。しかしその多くは、原曲がヴァイオリン協奏曲などバッハの旧作や他の作曲家の作品を編曲したものだと考えられている。今回演奏するBWV1061は1732年に作曲され、チェンバロ協奏曲の中で唯一、最初からチェンバロ2台で構成された作品となっている。

第一楽章 Allegro

ハ長調 4分の4拍子。華やかなリトルネッロ形式(テーマが何度も現れる形式)に基づく。冒頭のリトルネッロ主題を演奏したのち、明るく軽快なパッセージで互いに掛け合いながら展開する。

第二楽章 Largo

イ短調 8分の6拍子。1.3楽章とは雰囲気が異なり、ゆったりで穏やかな曲想となっている。両パートの模倣的な絡みが美しく、リトルネッロ形式が特徴である。

第三楽章 Vivace

ハ長調 4分の4拍子。「逃げる」という意味をもつFuga。その名の通り、最初一台のチェンバロにより提示される主題は、場所を変えてたちまち繰り広げられていく。

二台四手でありながら、このポリフォニー(多声音楽)は曲中、最大六声まで重なる。是非、声部の厚み、掛け合いにご注目頂きたい。

C.モンテヴェルディ / かくも甘い苦悩が
Claudio Monteverdi / Si dolce e'l tormento

クラウディオ・モンテヴェルディは、ルネサンスから初期バロックにおける最も有名な作曲家のひとりである。特に1607年に作曲されたオペラ『オルフェオ』は有名で、後世の作品にも大きな影響を与えたと考えられる。彼はオペラだけでなく多くのマドリガル集も作曲した。今回演奏する「Si dolce e'l tormento」は1624年に作曲された『ミラヌツィの優美なアリオーソ 第4巻』の中に収録されている。スケールを使ったシンプルな構成ではあるものの、その中からも恋の苦悩と喜びが感じとれるように曲が作られている。



H.シュッツ / おおイエスよ、甘美な名
Heinrich Schütz / O Jesu, nomen dulce

ハインリヒ・シュッツは、ドイツの初期バロック音楽を代表する作曲家で「ドイツ音楽の父」とも呼ばれる。また、イタリアで作曲技法を学び、今回演奏するもう1人の作曲家、モンテヴェルディに師事したこともある。

「O Jesu, nomen dulce」は1639年に作曲された『小宗教コンチェルト 第2集』という曲集に収録されている。この曲集は彼が作曲した中でも最も知られており人気な作品の一つで、ドイツ語とラテン語のテキストからなる通奏低音と声楽による幅広い曲が収録されている。その中でもこの曲はラテン語で書かれており、イエス・キリストの名を慈しむ内容になっている。元はテナーのために作られた曲だが、今日では女声によって歌われることもある。

C.P.E.バッハ /
オーボエと通奏低音のためのソナタ H549
*Carl Philipp Emanuel Bach /
Sonata in G minor for oboe and continuo H549*

カール・フィリップ・エマヌエル・バッハはヨハン・セバスティアン・バッハの最初の妻マリア・バルバラとの間に生まれた次男である。父よりもゲオルク・フィリップ・テレマンの作曲様式を受け継ぎ、ハイドンやベートーヴェンにも大きな影響を与えた。

第一楽章 Adagio

ゆったりとしたテンポで始まる。転調が激しく情緒不安定な曲調。

第二楽章 Allegro

第一楽章の雰囲気に対し2楽章は軽やかな雰囲気。

第三楽章 Vivace

これまで2拍子だったが3拍子になる。最初に演奏する穏やかさは主題が激しく変化してゆき、最後はダ・カーポしまた穏やかな主題で収束する。

突然気分が変わったように大胆に転調したりと感情の起伏が激しい曲となっている。バロックと古典の間のような、C.P.E.バッハならではの雰囲気をお楽しみいただきたい。

J.S.バッハ /
トリオ・ソナタ第4番 ホ短調 BWV 528
Johann Sebastian Bach / Trio Sonata No. 4 in E Minor, BWV 528

このトリオ・ソナタ第4番 ホ短調 BWV 528 は、オルガンのために書かれた「6つのトリオ・ソナタ」の第4番である。

1727年から1732年にかけて作曲されたと考えられており、オルガンの右手パート、左手パート、足鍵盤パートが、完全に独立した3つの声部となっている。今回はオーボエ・ダモーレとチェンバロで演奏する。

第一楽章は、カンタータ第76番「天は神の栄光を語る」BWV 76の第2部冒頭のシンフォニアから流用したものである。

第一楽章 Adagio- Vivace

ホ短調、4分の4拍子 - 4分の3拍子。

第二楽章 Andante

ロ短調、4分の4拍子。

第三楽章 Un poco allegro

ホ短調、8分の3拍子。

G.チェルベット /
3本のチェロのためのソナタ 第2番
Giacobbe Cervetto / Sonata per tre violoncelli n. 2

ジャコッペ・チェルベット(1680-1783)は、イタリア出身のイギリス系ユダヤ人。チェロの作品を数多く残し、18世紀のイギリスでは主要な作曲家であった。彼自身もチェロの名手であり、息子のジェームズ・チェルベットもチェロ奏者として共に活動した。

3本のチェロのためのソナタ 第2番は、名前の通りチェロのために書かれた曲だが、本日は3本のファゴットで演奏する。

第一楽章 Allegro

変ロ長調の素朴で活気のある主題が、ト短調に転調したり、調性の性格の違いを楽しめる。

第二楽章 Adagio

ト短調の冷徹で悲しげな短い楽章。

第三楽章 Allegro

快活なテンポの変ロ長調に戻り、鳥のさえずりのような、隣り合った音を交互に演奏する「トリル」という装飾の多用が特徴的な、華やかな楽章。



～ メンバー ～

声楽専攻

上原 愛美(院1)

音楽教育専攻 (リコーダー演奏)

勝俣 璃南(学4) 二条 朱音(学4) 杉方 花野(学4) 山路 百音(学4)
菊地 さやか(学4) 阿部 木綿(学3) 中村 汐里(学3) 青木 優太(学3)
上野 恋南(学3) 田中 茉悠(学3) 中澤 匠(学3) 川崎 さくら(学2)
伊藤 菜々実(学2) 高橋 瑛莉香(学2) 阿部 希海(学2) 木下 愛梨(学2)

オーボエ専攻

宮本 菜摘(学4) 岸原 伶奈(学2) 福田 真弓(学1)

音楽デザイン専攻 (フルート演奏)

小西 健文 (学2)

マンドリン専攻

島田 龍輔(学3) 村山 実裕加(学2)

ファゴット専攻

上治 唯奏(学4) 平川 眞鈴(学4) 渡邊 陽南(学3) 財津 向日葵(学1)

ピアノ専攻 (チェンバロ演奏)

小嶋 みのり(学4) 小林 萌(学4) 柴崎 奎吾(学4) 吉川 麻衣(学4)
吉田 陽南子(学4) 西川 真衣(学3) 横山 あかり(学3)
福田 ルアナ(学2) 杉村 春香(学1) 鈴木 美咲(学1)

作曲専攻 (チェンバロ演奏)

山口 広夢(学4)

指揮

高橋 明日香 (本学講師)

指導

高橋 明日香 上蘭 未佳

企画・司会

上蘭 未佳

運営責任者

柳澤 涼子

アカデミックコーディネーター

大島 健太郎



洗足学園音楽大学

SENZOKU GAKUEN COLLEGE of MUSIC